

## まえがき

日本語能力試験の受験者は年々増えつづけ、財団法人日本国際教育支援協会、独立行政法人国際交流基金の発表によると、2003年度には、その数は27万人近くに達しています。現在、世界各地で日本語能力試験合格を目指し、多くの学習者が勉強に励んでいます。また、それを助ける先生方も、日々、努力と模索を続けていらっしゃると思います。

教師として、私自身も日本語能力試験対策に長年かかわってきました。その中で、感じてきたことは、1、2級の文法対策の授業は、学習項目を消化するのが精一杯で、学習者はただそれを機械的に覚えることに終始しがちだ、ということです。もちろん、試験対策という性格上、それはある程度やむを得ないことです。しかしより広い視野で考えれば、試験対策も、「日本語を習得する」という大きな目的の一過程といえます。試験で点を取るためだけでなく、日本語能力を総合的に向上させるためにはどうすればいいか、紙上の表現を、どうすれば現実の使用場面と結びつけられるか、現場で持ち続けてきた疑問と、より実用的で効果的な授業をしたいという願いから本書は作られました。

なお、本書出版にあたり、日本語研究社教材開発室の方々にお世話になりました。特に、専門知識と経験に基づく助言を数多くいただいた小柳昇室長に、紙面を借りて感謝申し上げます。

本書が、日本語を習得しようと頑張っている方々、それを支えている先生方のお役に、少しでも立つことを願っております。

宇民美智子

# 目次

本書をお使いになる方へ

目的、特徴……

構成……

品詞・接続形の表示……

使用方法……

## 第1部 表現の成分・構成に注目して学習する

**第1課** 動詞に注目する(基本的な動詞)…………… 1

パート1 「ある」「言う」「来る」…… 1

パート2 「なる」「する」「思う」…… 10

**第2課** 名詞に注目する…………… 19

**第3課** 動詞とその連用形(名詞の形)、形容詞、副詞などに注目する…………… 29

パート1 「限る・限り」「堪える・耐える」など…… 29

パート2 「至る・至り」「極まる・極まりない」など…… 38

パート3 「即す」「置く」「早い」「なし」など…… 47

**第4課** 「もの」「こと」などの形式名詞に注目する…………… 56

パート1 「もの」「こと」…… 56

パート2 「ところ」「ため」「わけ」など…… 65

**第5課** 助詞に注目する…………… 74

パート1 「から」「まで」…… 74

パート2 「さえ」「のみ」など(強調に使われる助詞)…… 83

パート3 その他の助詞…… 93

<b>第6課</b>	動詞や名詞などの成分がペアで使われるもの	103
------------	----------------------	-----

## 第2部 表現の役割に注目して学習する

<b>第7課</b>	中級～上級レベルの助動詞・接尾辞を学習する	111
------------	-----------------------	-----

パート1 文語の助動詞

パート2 接尾辞・補助動詞

<b>第8課</b>	いろいろな文末表現を学習する	130
------------	----------------	-----

パート1 感情を表す表現

パート2 その他の表現

## 第3部 そのままの形で学習する

<b>第9課</b>	そのまま覚えるもの	149
------------	-----------	-----

索引	159
----	-----

<付録> 解答

## 本書をお使いになる方へ

### 目 的

本書は日本語能力試験 1 級の文法問題対策を目的としています。教室用としても、独習用としても使用できるように作られています。

### 特 徴

1. 基準に提示された 1 級表現を網羅  
『日本語能力試験出題基準[改訂版]』に掲げられた「文法 機能語」の 1 級の表現を全て、解説と例文をつけて紹介しています。
2. 過去に出題された基準外の表現も紹介  
最近の試験では、基準外の表現や意味・用法が比較的多く扱われる傾向があります。そこで、過去の試験問題に出題された基準外の表現や意味・用法も本書に含めました。
3. 学習する表現を、その成分や構成に注目して分類  
学習する表現を、その成分、構成や役割に注目して分類しました。それによって、系統立てて学習しやすくなっています。
4. レベルアップのための関連情報  
学習項目に関連する表現と一緒に学習することで、さらにレベルアップできます。
5. 読み物と会話がついている  
その課で学習する表現が含まれた読み物と会話文を読むことで、それらの表現が実際にどのように使われるのか理解することができます。
6. 分かりやすい解説と例文  
「学習項目」の各表現には、全て意味・用法の解説と接続、例文がついています。
7. 慣用表現を明示  
決まった形でよく使われる表現は、慣用表現としてその例を紹介しています。
8. 練習問題が豊富  
各課には「2 級の確認問題」「練習問題」「まとめの問題」が用意されています。
9. 2 級の表現も復習できる  
1 級の問題には 2 級レベルのものも出題されます。重要と思われるものを、各課の最後の「2 級確認・復習」で取り上げて復習・確認できるようになっています。

## 構成

### [ 全体の構成 ]

本書は学習項目を大きく三つに分類しています。

- ▶ 第一部：表現の成分・構成に注目して学習する  
(第1課～6課)
- ▶ 第二部：表現の役割に注目して学習する  
(第7課～8課)
- ▶ 第三部：そのまま覚えるもの  
(第9課)



第一部では、主に各表現の基になっている言葉や成分に注目し、同じ単語や成分から派生した表現や、成分が似ている表現をまとめて学習するようになっています。第二部では、中・上級レベルの助動詞と接尾辞、そして文末表現という三つの点で学習項目を分類しています。そして、第一部、第二部、どちらにもあてはまらないものを第三部にまとめました。

### [ 各課の構成 ]

各課は以下のような構成になっています。

- ▶ 学習、復習する項目の一覧  
その課の「学習項目」「復習・確認項目」が一覧になっています。
- ▶ 読み物と会話  
その課の「学習項目」の表現と、「復習・確認項目」の一部の表現が文中で使用されています。理解度がチェックできるように設問がついています。
- ▶ 学習項目  
各課のメインとなる文法項目です。それぞれに意味・用法、接続、例文及び、それに関連する情報が載っています。

< 見出しに表示されている記号・アイコンについて >

- : 1級の文法項目
- ② : 2級の文法項目
- 過 : 過去に1級で出題された文法項目
-  : 主に書き言葉として使われるもので、非常に硬い表現
-  : 硬い表現で、書き言葉として使われることが多い

関連する情報は、各学習項目に直接関係するものと、そうでないものがあります。  
<直接関係する情報に使われている記号について>

！ : 「注意」という意味で、形や意味について注意すべき点です。  
慣 : 「慣用表現」で、その学習項目が慣用的に使われる形が紹介されています。例文にある慣用句(表現)には下線が引かれています。  
! その他の用法 :  
その学習項目の基準外の意味・用法が説明してあります。

<直接は関係しない情報に使われている記号と名称について>

⇔ : 「類義語」で、その学習項目と同じ意味を持つ表現、特に2級の表現が示されています。

☞ : 「関連語」で、その学習項目と関連している表現を紹介しています。

「類義語」と「関連語」が本書の他の課または同じ課の別の箇所で紹介されている場合には、その箇所を示す情報が付けられています。

(凡例)

- 「～からある」(第5課1) : 第5課のパート1の学習項目にある。  
② 「～つつある」(第8課2 復習・確認) : 第8課のパート2の復習・確認項目にある。  
② 「～といっても」(復習・確認↓) : 同じ課の復習・確認項目にある。  
「～にたる」(学習項目6↓) : 同じ課の学習項目の6にある。

を使ったその他の表現 : その学習項目と同じ成分を持つ、または同じ言葉から派生した他の表現がまとめられています。

の基本的な用法 : その学習項目の基となっている単語の基本的な意味が説明してあります。

#### ▶ 2級の復習・確認

「復習・確認項目」(ぜひ復習しておきたい2級の表現)が例文とともに提示されています。がついているものは、基準外の表現ですが、一緒に復習しておいた方がいいものとして紹介されています。

また、理解しているか確認するために、「確認問題」がついています。

#### ▶ 練習問題

「学習項目」についての練習問題です。言い換え問題や、短文作成問題など、4種類の問題が用意されています。

## ▶ まとめの練習問題

日本語能力試験の出題形式にあわせた問題です。1、2級の表現を総合的に復習できるようにになっています。

### 品詞・接続形の表示

本書では、品詞を次の略語で示してあります。

#### [ 品詞 ]

- ・名 = 名詞
- ・形 = 形容詞（い形容詞とな形容詞の両方）
- ・い形 = い形容詞
- ・な形 = な形容詞
- ・動 = 動詞
- ・スル動詞 = 「～する」をつけて使う動詞（例：経験する、発見する、など）
- ・スル動詞の名 = スル動詞の名詞の部分（例：経験、発見、など）

#### 動詞のグループの表示について

- ・GI = 五段動詞【書く、読む、など】
- ・GII = 一段動詞【食べる、見る、など】
- ・GIII = 不規則動詞【する、来る】

#### [ 接続形 ]

接続形は、上に示された品詞（ ）と次に示された形（ ）を組み合わせ、全体として、“ - + ” のように表示されています。

#### < 全品詞に共通した形の表示 >

- ・ - 普通形 +
- ・ - 連体修飾形 + 【な形容詞の「～な」、名詞の「～の」以外は普通形と同じ】
- ・ - 連体修飾形（現在形） + 【連体修飾形のうち現在形のみ】

#### < 動詞だけに使われている形の表示 >

- ・動 - 辞書形 + 【例：食べる、書く】
- ・動 - ます形 + 【例：食べます、書きます】
- ・動 - ~~ます~~形 + 【例：「食べます」の「食べ」】
- ・動 - て形 + 【例：食べて、書いて】
- ・動 - た形 + 【例：食べた、書いた】
- ・動 - ない形 + 【例：食べない、書かない】
- ・動 - ~~か~~形 + 【例：「書かない」の「書か」】
- ・動 - 意向形 + 【例：食べよう、書こう】
- ・動 - ば形 + 【例：書けば、食べれば】
- ・動 - 可能形のない形 + 【例：書けない、食べられない】

< 形容詞だけに使われている形の表示 >

- ・い形 - い + 【例：大きい / 「～い」という言い切りの形】
- ・な形 - な + 【例：きれいな / 「～な」という形】
- ・い形 - ければ + 【例：大きければ】
- ・な形 - なら + 【例：きれいなら】
- ・い形 - くて + 【例：大きくて】
- ・な形 - で + 【例：きれいで】

< 名詞とな形容詞だけに使われている表示 >

- ・名 - である + 【例：学生である】
- ・な形 - である + 【例：きれいである】
- ・な形・名 - であれば + 【例：学生であれば、暇であれば】

## ■ 使用方法

本書は学習者のニーズに合わせて、どの課からでも学習できますが、基本的に第1課から順に学習することを前提に作られています。したがって、練習問題の選択肢には、学習中の課以前に学んだ表現もいくつか使われています。

### [ 使用方法の一例 ]

- (1) 学習項目、復習・確認項目の一覧で既習、未習をチェック
- (2) 2級の復習・確認(例文と確認問題)
- (3) 学習項目の文法を学習  
時間に余裕があれば、関連する文法、表現(「その他の用法」や「を使ったその他の表現」など)を学習する。
- (4) 「練習問題」の1～3で理解のチェック
- (5) 「読み物」「会話」で使われ方のチェックと内容理解のチェック
- (6) 「練習問題」の4で作文練習
- (7) 「まとめの問題」で最終確認し、できなかったところを復習